

日本社会開発基金

成果報告

25周年記念版

若者と女性の

経済参加を促進する

キルギス共和国：若年層コミュニティの生活の質支援プロジェクト

2019年-2023年 | 273万ドルのグラント

約700万人が暮らすキルギス共和国は、根強い社会経済的課題に取り組んでいます。豊富な天然資源とエネルギー生産、農業、観光業における経済成長の潜在的可能性にもかかわらず、キルギス共和国は依然として欧州・中央アジア地域で最も貧しい国のひとつです。農村部や山間部に住む人々は、最も脆弱な立場に置かれています。孤立、基本的なサービスへの限定的なアクセス、経済の低迷が、キルギス国民の3分の2の生活に影響を与えています。

農村部の女性や若者は、最も貧しく、最もリスクの高い状態にあります。男性と比較して、女性は雇用機会が限られていたり、仕事があっても非公式で低賃金の職に限られています。高額な育児費用と性別による固定観念もまた、女性が職を探すことの妨げとなることが多くあります。これまでのところ、経済部門を規制するキルギス政府の試みは、特に中小企業にとって全体的なビジネス環境の改善にはつながっておらず、雇用機会をさらに減少させています。



2019年に、日本社会開発基金(JSDF)を通じて日本政府が資金提供したグラントと、世界銀行の管理により開始された「若年層コミュニティの生活の質支援プロジェクト(L4Y)」は、若者と女性の経済参加を促進し、若者中心のビジネス、経済インフラ、デジタルプラットフォームを支援し、貧困削減と繁栄の共有に貢献することを目的とした革新的なプロジェクトです。プロジェクトは、中央アジア・南アジア電力貿易プロジェクト(CASA 1000)、CASA 1000コミュニティ支援プログラム、世界銀行のキルギス共和国向け国別パートナーシップ枠組みなどの既存のイニシアティブと緊密に連携しています。また、プロジェクトは、南部地域、特にフェルガナ盆地の脆弱な小地区に焦点を当て、ジェンダーの平等と女性の利益を重視しながら、多様性と紛争の解決に貢献しました。

CASA 1000コミュニティ支援プログラムを補完するものとして設計されたL4Yは、事業計画に関する教育プログラムを実施し、300人の若者にデジタル技術を含む事業開発支援を提供しました。L4Yの4年間の活動によって、3,948人の若者と女性にスキル構築と研修を提供することに成功し、収入を1,670%増加させることにつながりました。事業開発に重点を置くことで、プロジェクトは自営業を営む若者の数が25%増加することに寄与し、若者の経済的自立を促進しました。

平等な参加、女性のエンパワーメント、生涯学習に焦点を当てたことが功を奏し、若い女性のプロジェクト修了率は93%に達しました。さらに、若者のスキル構築、所得創出、経済的包摂といったプロジェクトの成果により、若者の88%が経済的包摂についてより深く意識していると報告されています。どちらの結果からも、参加意識とモチベーション、より良いコミュニティ統合、地域経済の形成に積極的に貢献しようとする参加者の意欲が明確に伺えます。

スキル構築、所得創出、コミュニティ統合といったプロジェクトの具体的な成果は、若者と女性の経済的機会を促進するための献身的な取り組みがもたらす変革的な影響を浮き彫りにしています。キルギス共和国が社会経済的状況のかじ取りをする中で、L4Yのようなプロジェクトは、前向きな変化と持続可能な開発の可能性を実証しています。